

昔から今へと続くまちづくり | 堀川をつくった人々

1 単元の概要

川は昔から私たちの暮らしになくてはならないものでした。飲み水となり、米や野菜を育て、また、物資を運ぶなどいろいろな役目を担ってきました。しかし、子どもたちの知っている川は自然の川であり、昔、人の手によってつくられた川があることは知りません。よりよい生活を求めて知恵と力を出し合い、長い年月をかけて努力し、地域の発展に貢献してきた人々がいます。ここではこのような先人の働きについて学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 堀川開削にかけた先人の工夫や努力と人々の生活の向上との関連について理解させる。
- 博物館の川ひらたや石炭の実物、川ひらた演出映像を活用することによって、当時の人々の働きや苦心、地域の人々の生活の向上などについて考えることができるようにする。



現在の堀川の地図

3 指導計画（総時数 14 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 堀川の現在と昔の地図を基に、川的位置やまわりの様子について話し合い、学習問題をつくる。	○ 堀川的位置を地図で確認したり、昔の地図と比べて、人の手によってつくられた川であることに気付くことができるようにする。	1 時間
II 堀川がつけられたわけを調べる。	○ 洪水と日照りなどが頻繁に起こっていることを年表を使って調べさせ、堀川がつけられたわけについて話し合うようにする。	1 時間
III 堀川を見学し、分かったことや疑問を出し合い、堀川開削について調べる計画を立てる。	○ 寿命唐戸や中間唐戸、河守神社、車返し付近を見学させ、分かったことや疑問を見学メモにまとめさせる。	3 時間
IV 堀川開削の様子、当時の人々の工夫や努力を調べグループごとに紙芝居にまとめる。	○ 資料をもとに、大膳や又之進、久作らの苦心や願いについて調べ、工事の難しさや人々の知恵や努力に気付かせる。	6 時間
V 堀川ができてからの人々の暮らしの変化について調べる。 ① 洪水や日照りの被害の減少と米の取れ高の増加 博物館での学習 ② 石炭・年貢米運搬のための運河としての利用	○ 米の取れ高が増えたことや堀川が石炭の運搬などの運河として利用されたことなどを調べ、堀川開削と地域の人々の生活の変化との関連について考えさせるようにする。 ◆ 川ひらた演出映像 ◆ 川ひらた ◆ 石炭	2 時間
VI 地域住民の堀川を守る活動について調べ、堀川に対する地域住民の思いについて話し合う。	○ 地域住民の思いに触れさせることで、自分たちも地域を大切にしていこうという心情をもつことができるようにする。	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<p>川ひらたの実物や石炭、「川ひらた演出映像」などの資料をもとに、堀川ができてから人々の暮らしは、どのように変化したのか考えよう。</p>		
I テーマ館に展示されている川ひらたを見学する。	○ ワークシートに川ひらたの絵をかかせたり、説明を書き加えたりさせることで、川ひらたの大きさやつくりを実感させる。	◆川ひらた 博物館での学習 1 時間
II 川ひらたや石炭の実物を見て、わかったことや考えたことについて発表する。	○ 川ひらたや石炭の実物を見て、当時働いていた人々の様子について考えさせる。	◆石炭
III 「川ひらた演出映像」を見ながら、堀川開削に尽くした先人の働きと人々の生活の向上について話し合う。	○ 映像資料（川ひらたに乗った二人の船頭が堀川開削の歴史について話しているもの）を視聴する際、堀川開削に尽くした先人の働きや、完成後の人々の生活の向上について着目しながら視聴させるようにする。 ○ 映像資料のシナリオ台本（「博物館利用の手引き」のP49）を増し刷りし、児童に持たせたいうで映像資料を視聴させるようにする。 ○ 映像資料を視聴後、これまでの学習を振り返り、「堀川がつけられたわけ」「堀川づくりにおける人々の工夫や努力」「堀川が完成した後の人々の生活」について、船頭さんになったつもりでワークシートの吹き出しにまとめさせるようにする。	◆堀川の水運 「川ひらた演出映像」

5 博物館での学習

川ひらたの実物や、「川ひらた演出映像」などの資料をもとに、堀川ができてからの人々の暮らしは、どのように変化したのか考えよう。

博物館での学習
1時間

テーマ館には堀川の水運に関する資料が展示されています。その中で子どもたちの興味や関心を高めるのは「川ひらた」だと思われます。この舟は寝泊まりができる「所帯舟」と言われる大型のもので、宮崎県に生育する飴肥杉の中でも赤身の多い「日向鼈甲^{ひゅうがべっこう}」といわれる杉材を使用し、材料・工法ともに往時の川ひらた（五平太）を忠実に再現しています。

実物を絵に描かせたり、船金庫や船箆など舟の中に積まれているもの、その他気付いたことや見付けたことを書き加えさせたりすることで、子どもたち一人一人が「川ひらた」への思いを具体的にもつことができると考えられます。

また、子どもたちを「川ひらた」の前に並ばせて、大きさを実感させるなどの活動を仕組むことも可能です。

さらに、この舟には石炭が積まれています。7.5トンの石炭を積むことができました。米を運び、石炭を運んだ「川ひらた」が行き来した堀川の様子をイメージすることができるでしょう。

映像資料では、堀川の歴史が映像と二人の船頭の会話を通して分かりやすく説明されています。

※堀川の水運「川ひらた演出映像」内容概略

- 堀川をつくったわけ
- 堀川の工事を始めた黒田長政の紹介
- 一番の難工事であった吉田切貫
- 年貢米を運ぶ川ひらた
- 寿命の唐戸水門
- 全長12.5キロメートルにおよぶ堀川の完成
- 洞海湾が大変近くなったこと
- 日本の近代化を支えた石炭の運搬
- 何千艘もの川ひらたで働く船頭さん



テーマ館の川ひらた

※1「川ひらた演出映像」詳細については、P49 堀川の水運「川ひらた演出映像」をご覧ください。

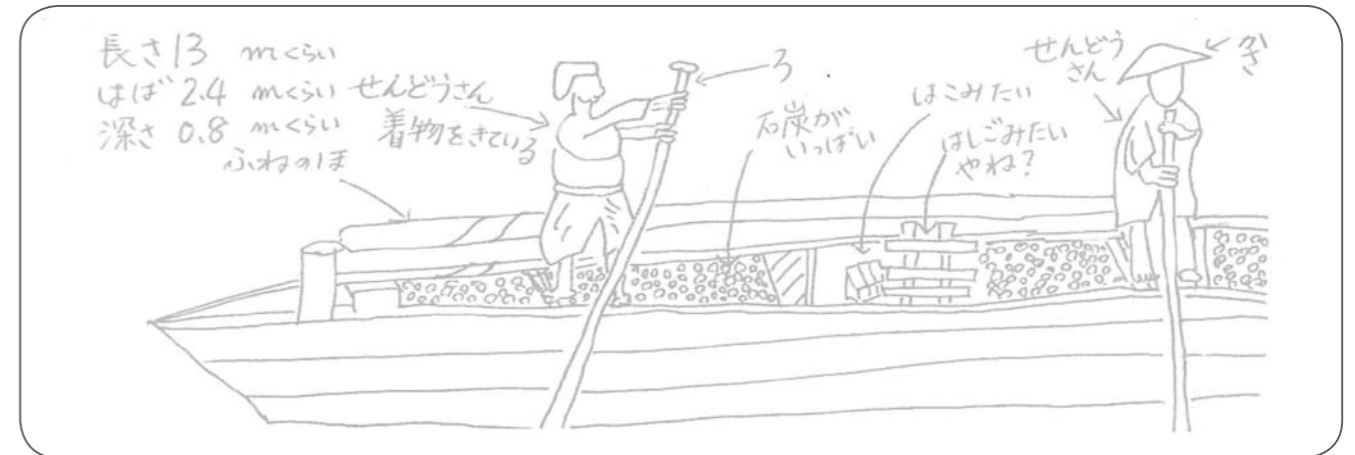
○川ひらたデータ

・積載量…40石(約7.5t) ・長さ…4丈3尺(約13m) ・幅…8尺(約2.4m) ・深さ…2尺6寸(約0.8m)

POINT 「川ひらた」関連参考資料

事前に学校で堀川工事の概要を学習した上で、この「川ひらた演出映像」を視聴することによって、堀川の役割を再認識し学習をふりかえることができます。また、映像を視聴しながら、ワークシートに「堀川をつくったわけ」「堀川工事における苦労」「堀川完成後の人々の生活」をまとめることによって、堀川の果たした役割と当時の人々の生活との結び付きが見え、堀川について十分理解が深まることが期待できます。

1 テーマ館の「川ひらた」を絵や文で書きましょう。



2 「川ひらた」を見学して、わかったことや考えたことを書きましょう。

・堀川を使って、この大きな舟にたくさんの石炭を積んで、いろいろなところに運んでいたと思う。

3 船頭さんになったつもりで、堀川をつくったわけや、堀川づくりの苦労、完成後の人々の生活について吹き出しにまとめてみましょう。



①堀川がつくられたわけは…

むかし遠賀川では大水(洪水)のせいで被害を受けていた。遠賀川の流れを堀川に分けて、洞海湾に流したかったからじゃ。

②堀川づくりで苦労したことは…

吉田切抜で400 mも続く岩場をつちとのみで切り抜いていったところじゃ。9年間もの年数をかけて、人々が協力し車返しの工事をがんばったのじゃよ。

③堀川が完成してからは…

ひらた舟を使って、年貢米や石炭を運べるようになったんじゃ。また、洪水や日照りの被害が減り、堀川から田に水がひけるようになって、米の取れ高が増えた。このように、村人の生活が安定したんじゃ。